

### 3. 学力向上推進計画

南城市立百名小学校

#### 1 目標

自ら学ぶ意欲をもち、心豊かでたくましい児童の育成

#### 2 基本方針

- (1) 県の「学校教育における指導の努力点」として掲げている「確かな学力」の向上を踏まえ、「わかる授業」の構築による「確かな学力」の向上に焦点をあてた取組を推進する。
- (2) 県「学力向上推進5カ年プラン・プロジェクトII」授業改善・学校改善5つの方策」に基づき、本校の特色を生かした計画を立てる。
- (3) 学力向上マネジメントによる「目標管理型評価システム」を構築し、学力向上に係る学校課題の解決を図る。
- (4) 学力向上の総括目標・推進目標の達成に向けて、児童の実態を十分把握した上で具体的な取組を推進する。
- (5) 児童一人一人の「確かな学力」の向上を図るため、日常的な共通実践事項を一層充実させるとともに、校内研修を中心とした教師の指導力の向上・授業改善の取組を推進する。
- (6) 学校支援地域本部事業や幼小中との連携を通して地域教育資源を活用した授業の工夫改善に取り組む。

#### 3 取組構想

**総括目標** : 幼児児童生徒一人一人に「生きる力」の基盤となる「新しい時代をつくるために必要とされる資質・能力を育む」

**推進期間** : 令和2年度～令和6年度



成果指標 沖縄県到達度調査を指標とし検証する。

- (1) 全教科において平均正答率を県水準まで向上 ※令和2年度は、全国学力・学習状況調査なし
- (2) 平均正答率30%未満の児童の割合及び無解答率の減少
- (3) 児童生徒質問紙における学習意欲等に関連する項目の数値の向上
- (4) 学校質問紙の「授業における基本事項」等に関連する事項の数値の向上



〔実態〕

◎全国学力・学習状況調査において国語で全国の平均正答率を上回った。  
◎無解答率が低く、粘り強く取り組める。

#### 推進目標

- ①R4年度県学力到達度調査において県平均を上回る。
- ②R4年度全国学力学習状況調査においても全国平均を上回る。

〔課題〕

・自分の考えを思考・判断表現する力が不十分。  
・算数の基礎基本は定着しているが、算数の記述題において、既習事項が生かされていない。

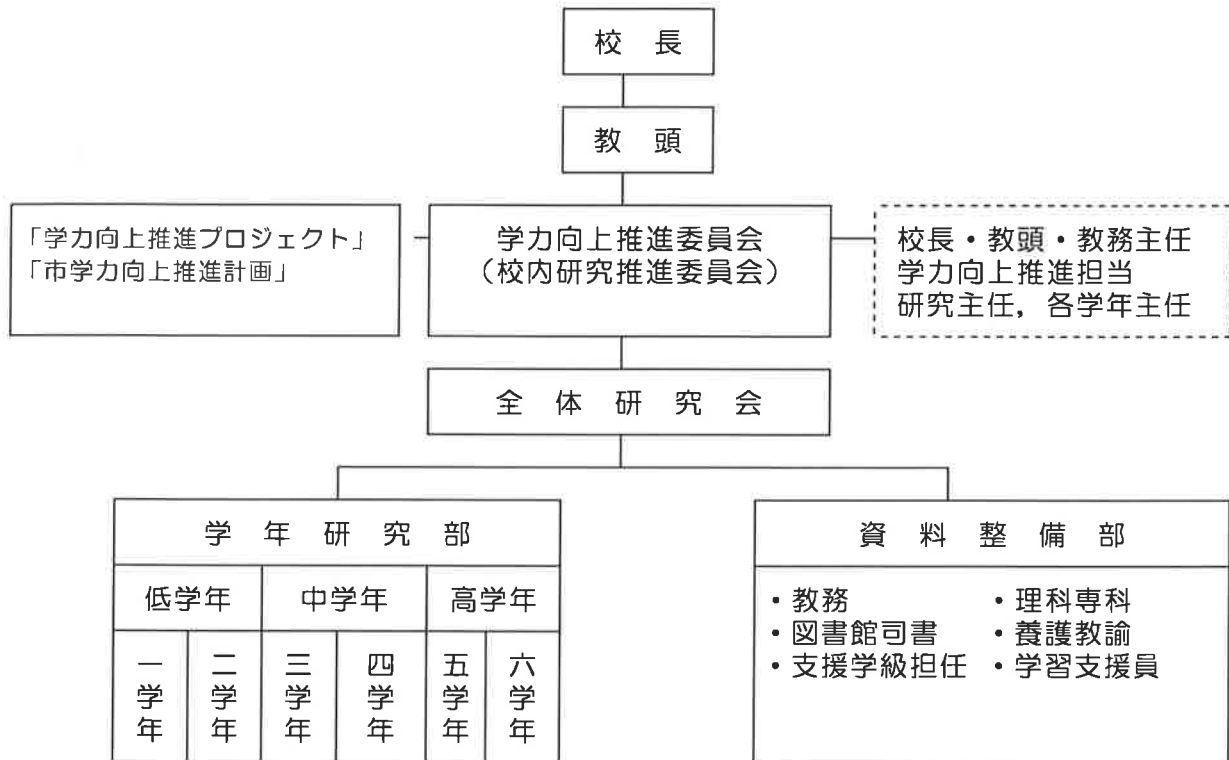
#### 学びの質を高める5つの方策

<b>方策1：日常化する</b> <b>【質的授業改善】</b>	<b>方策2：そろえる</b> <b>【組織的共通理解】</b>	
「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて日々の質的授業改善の取組を日常化する。	アセスメントによる実態認識・課題認識をそろえる。	
<b>方策3:支える</b> <b>【発達の支援】</b>	<b>方策4:見通す</b> <b>【学校組織マネジメント】</b>	<b>方策5:つなぐ</b> <b>【学校連携・地域連携】</b>
支持的風土のある学校・学級経営を通して発達の支援を充実させる。	学校組織マネジメントの機能を高め、カリキュラム・マネジメントの充実を図る。	「社会に開かれた教育課程」の実現に向けた学校連携・地域連携を推進する。

#### 4 推進の3つの視点（学力向上推進プロジェクトIIによる）

- (1) 自己肯定感の高まり・・・「児童生徒が、自分のよさや可能性を認識すること」
- (2) 学び・育ちの実感・・・「児童生徒が、学ぶことの意義や価値を実感し、資質能力を伸ばすこと」
- (3) 組織的な関わり・・・「各学校が、教育課程に基づき組織的かつ計画的に各学校の教育活動の質の向上を図っていくこと」

#### 5 推進体制



#### 【役割】

	主な活動内容	構成員
推進委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学力向上推進計画の立案、推進にあたる。</li> <li>・全体研究会の計画、記録、各部会への連絡調整を行う。</li> <li>・実践報告書の原案作成及び各学年部のまとめを行う。</li> <li>・資料や文献等の収集・紹介を行う。</li> </ul>	教頭・教務 学力向上推進主任 学年主任 研究主任
全体研究会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学力向上推進計画の決定、実践についての共通確認を行う。</li> <li>・具体的実践上の諸問題について協議し共通理解をする。</li> <li>・実践しての成果や課題について協議する。</li> <li>・実践報告についての協議、決定を行う。</li> </ul>	全職員
学年研究部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年学級における具体的な実践計画と評価計画を立てる。</li> <li>・日常的な具体的実践に取り組む。</li> <li>・実践を通しての評価を行い、反省をもとに取組を改善する。</li> <li>・実践資料（文書・写真）を整理・保存する。</li> <li>・実践報告のまとめをする。</li> </ul>	各学年担任
資料整備部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料の収集、整理を行う。</li> <li>・アンケートの作成、集計、分析を行う。</li> <li>・諸調査等の採点&amp;入力</li> </ul>	教務 理科専科 特別支援担任 図書館司書 学習支援員 養護教諭

## 6 活動状況 (R-PDCA)

月	活動内容	主となる担当者
12月	P:本校の課題と対応策についての確認・令和3年度学力向上推進計画の提案	学推主任
1月	C:地区・市への実践報告書作成及び提出 ※学方向上強化月間の取組④	学推主任 全校
1月	D:生活リズムの向上② D:課題となる単元や内容への対応策検討	各学年・学推主任 各学年・学推主任
2月	D&C:南城市「教育の日」学校公開日・実践発表 ※R2なし A:「学びのたしかめ」結果の課題内容に関する補充指導	全校・学推主任 各学年・学級
2月	D:授業の工夫改善・補習指導の実施(第3～第6学年) ※R2なし 5年生のみ実施	5年・担外職員
3月	C:県学力到達度調査の実施・採点・分析	5～6年・学推主任
3月	A:本年度の具体的取組の見直し・改善策の検討 C:県学力到達度調査・県「学びのたしかめ」結果の総括	学推主任・学年主任 各学級・学年
4月	D:全国学力・学習状況調査に向けた補習指導(第5学年の補強)	5年・担外職員
4月	P:「沖縄県学力向上推進プロジェクト」「市学力向上推進計画」「わかる授業サポートガイド」「県学力向上 Web システム活用」の共通確認	教頭
5月	P:令和3年度学力向上推進計画の確認 P:基本的な学習態度の指導についての確認 P:学習支援ボランティア活用計画と学校支援本部への依頼 R:学級担任による児童の実態把握(生活面・学習面) D:「立腰・1分間黙想」「家庭学習ノート」の継続 D:朝のチャレンジタイム(木曜日:算数 金曜日:国語)	学推主任 学推主任・全教諭 教頭・学推主任 各学級担任 全教諭 各学級担任
5月	D:全国学力調査に向けた第6学年の補強(授業支援・補習指導)	6年担任・担外職員
5月	C:全国学力学習状況調査の実施 C:全国学力学習状況調査の自校での採点・課題分析と対応策検討	6年 全教諭・学推主任
5月	D:推進計画に沿った実践(～7月)→日常的・実効性・連携 ※学習規律強化月間の取組①	全教諭 全校
5月	R:生活実態調査の実施・分析 P:授業公開計画 P:さわやか学習の実実施計画検討 地域学習ボランティアの依頼	各担任・教務主任 全教諭・研究主任 学推主任・全教諭
5月	D:さわやか学習(金曜6校時:授業カウント) D:教育相談週間	教頭 各学級担任・担外職員
6月	D:教育相談週間	各学級担任
6月	C:県「学びのたしかめ」調査実施・採点① D:児童生活実態アンケート①	2～6年・全教諭 各学級担任
6月	D:あいさつ月間 D:読書月間	生徒指導部・全学級 図書館教育担当
7月	D&C:宇児童会の実施(夏休みの過ごし方) A:県「学びのたしかめ」調査の結果分析・改善策の検討	各担当
7月	C:1学期の取組の振り返り C:学力向上推進の取組の評価・反省(1回目)	全職員
8月	D:夏季校内研修会の実施及び各種研修会への参加	全職員
8月	D:全国学力学習状況調査の結果分析 A:1学期の反省をもとにした取組の修正(改善) P:2学期の強化学習計画(9月～11月)の提案・共通理解	全職員 各学年・学推主任 学推担当
9月	※学方向上強化月間の取組②	全校
9月	D:生活リズムの向上① D:推進計画に沿った取組(～12月)	各学年・学推主任 全教諭
10月	→課題に応じた具体的で日常的な取組・実効性のある取組 D:全国学力学習状況調査の課題解決を意識した授業改善	全教諭
11月	D:校内研全体授業研の実施(授業構成の指導改善) D:授業公開(授業構成の指導改善)	担当教諭 各教諭
12月	C:県「学びのたしかめ」調査実施・採点 ②※学方向上強化月間の取組③	全学年・全教諭 全学級・全職員
12月	D:朝のチャレンジタイム・さわやか学習(補習指導)の充実 A:本年度の取組資料の整理・保管 C:学力向上推進の取組の評価・反省(2回目) P:本年度の課題を踏まえた次年度計画立案	各学年・学推主任 全職員 教頭・学推主任
12月	A:県「学びのたしかめ」調査の結果分析・改善策の検討 D:児童生活実態アンケート②	2～6年・全教諭 各学級担任

視点	【視点1】 自己肯定感の高まり	【視点2】 学び・育ちの実感	【視点3】 組織的な関わり
方策	<p><b>日常化する ～質的授業改善～</b></p> <p>○児童が、学んだことの意義や価値を実感し、自己肯定感を高める個人内評価等の取組を日常化する。</p> <p>1 ○生徒指導の3つのポイントを生かした授業を日常化する。</p> <p>○資質・能力を育むために、単元を見通した授業改善授業改善を日常化する。</p>		
実践項目・内容及び数値目標	<p>(1) 「カリキュラム・マネジメント」の充実で「主体的・対話的で深い学び」の実現を図る。</p> <p>(2) 「学力向上推進5カ年プラン・プロジェクトII」や「『問い』が生まれる授業サポートガイド」等を活用して、日常の授業を見直し、授業改善を図る。</p> <p>(3) 学ぶ意義・身に付けさせたい力の明確化、指導内容の吟味、指導方法の工夫・改善を行う。</p> <p>(4) 主体的・対話的で深い学びを意識した授業を構築する。</p> <p>(5) ICTや視聴覚機器を効果的に活用したわかる授業の推進を図る。</p> <p>(6) 学年会や教科会、校内研修等を充実させる。</p> <p>(7) 教職員協働による授業改善の充実に向けた取組。</p> <p>(8) 各種取組を通して、日常的な授業改善を支援する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p><b>【数値目標】</b></p> <p>○全国学力学習状況調査の正答率→全国平均を上回る。</p> <p>○県学力到達度調査の正答率→沖縄県平均を上回る。</p> <p>○「学びのたしかめ」学力調査の正答率→目標値を上回る。</p> <p>○授業公開→全教諭1回以上（12月までに）</p> <p>○授業が分かりやすく楽しい（児童アンケート：学校評価→評定3以上）</p> </div>		

視点	【視点1】 自己肯定感の高まり	【視点2】 学び・育ちの実感	【視点3】 組織的な関わり
方策	<p><b>そろえる ～組織的共通実践～</b></p> <p>○見取る視点・観点を共有し共通実践する。</p> <p>2 ○「学習の基盤となる資質・能力」の育成。</p>		
実践項目・内容及び数値目標	<p>(1) 全国学力・学習状況調査や県学力定着状況調査「学びのたしかめ」を活用した実力調査等の結果を分析し、「授業における基本事項」や「問いが生まれる授業サポートガイド」等を活用して組織的に授業改善に取り組む。</p> <p>(2) 学力向上マネジメントの推進。</p> <p>(3) 教師が模範となった人権意識を高め、築くための言語環境の整備・推進を図る。</p> <p>(4) 学校経営ビジョンを共有した取組の推進。</p> <p>(5) 管理職による日々の授業観察とフィードバックの取組を推進する。</p> <p>(6) インクルーシブ型学級経営の充実及び児童生徒一人一人に応じた指導を推進する。</p> <p>①Q-Uを活用したアセスメントの明確化。</p> <p>②インクルーシブ型学級集団づくり。</p> <p>③授業、環境づくりにユニバーサルデザインの視点を取り入れる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p><b>【数値目標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○1人1回以上授業公開</li> <li>○諸調査分析資料を生かした授業展開</li> <li>学校評価アンケート（児童）</li> <li>○学校へ行くのが楽しい→評定3以上</li> <li>○授業開始ベルと同時にきちんと席に着くことができる。→評定3以上</li> <li>○立腰と1分間の黙想がきちんとできる。→評定3以上</li> <li>○いつも自分から進んであいさつをしている。→評定3以上</li> <li>○授業が始まる前に学習用具の準備ができる。→評定3以上</li> <li>○発達段階に合った早寝ができる→7割※低学年9時 中学年9時半 高学年10時</li> <li>○早起き（朝6時半までに起きる）ができる。→7割</li> <li>○朝ご飯をしっかり食べる。→9割</li> <li>○ミントウンの会を活用した補習の実施</li> </ul> </div>		

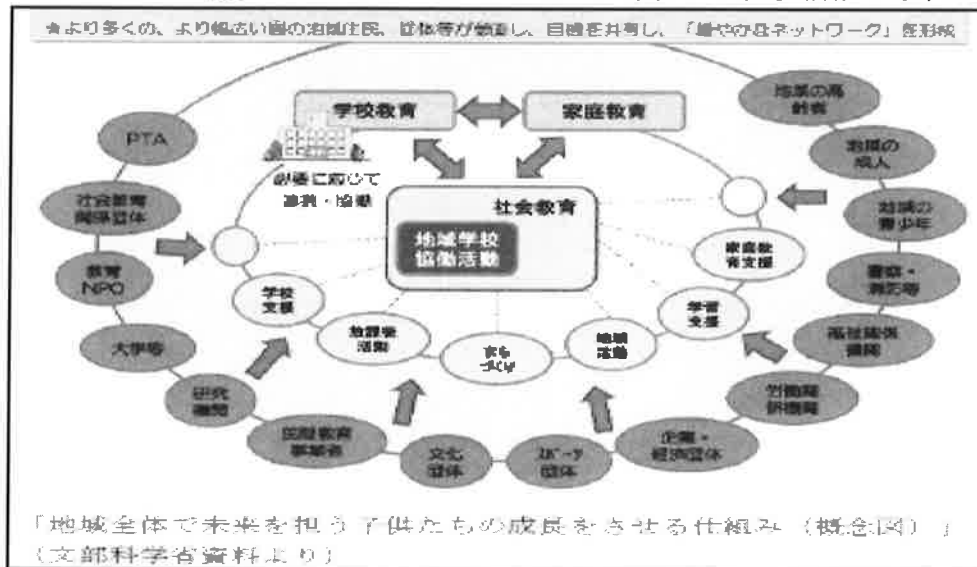
視点	【視点1】 自己肯定感の高まり	【視点2】 学び・育ちの実感	【視点3】 組織的な関わり
方策	<p><b>支える ～発達への支援～</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○確かな児童生徒理解</li> <li>○支持的な風土をつくる学校・学級経営の充実（ガイダンスとカウンセリング）。</li> <li>○学びに向かう集団づくり。</li> </ul>		
実践項目・内容及び数値目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 豊かな心や確かな学力の育成に向けた取り組みを、特別教育の視点で再確認し、児童生徒一人ひとりを大切にする教育を推進する。</li> <li>(2) 児童生徒を「ほめる」「認める」言葉かけや児童生徒が考えて行動できるような言葉かけをすることにより、児童生徒のよさを積極的に評価し自己肯定感を育む。</li> <li>(3) 学習支援員・特別支援教育支援員を効果的に活用し、個に応じたきめ細かな指導を進める。</li> <li>(4) 将来の夢や希望を形づくる学習で「なりたい自分」を広げ、様々な知識や技能を身につけ「なれる自分」を広げる。</li> <li>(5) 「キャリア・パスポート」の活用</li> <li>(6) 年2回の学校訪問を通して、学校と教育委員会との連携強化及び教育活動の充実。</li> <li>(7) 認知トレーニングの実施、MIM教材の活用を広げる。</li> <li>(8) SST（ソーシャルスキルトレーニング）及びSGE（構成的グループエンカウンター）等の研修会を行い、授業や学級経営を支援する。</li> <li>(9) 「市小中外国語研修会」において、講師を招聘し、小中連携した外国語科における指導と評価、授業づくりを支援する。</li> <li>(9) キャリア教育担当者連絡会を開催し、各校のキャリア教育の充実に努める。</li> <li>(10) GIGAスクール構想におけるPC活用を支援する。</li> <li>(11) 「子どもとしっかり向き合い、質の高い授業、教育活動ができる働き方」をめざし、学校業務改善を推進する。</li> <li>(12) スポーツ少年団や部活動の終了時刻厳守等、家庭学習時間の確保と定期的な休養を確保する取組を推進する。</li> <li>(13) リーダー育成キャンプ、ESLキャンプ、海外短期留学、中国国際交流事業を実施する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p><b>【数値目標】</b></p> <p>学校評価アンケート（児童）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「学校へ行くのが楽しい」→評定3以上</li> <li>○「自分にはよいところがあると思う」→評定3以上</li> <li>○「先生は頑張った時ほめてくれる」→評定3以上</li> </ul> </div>		

視点	【視点1】 自己肯定感の高まり	【視点2】 学び・育ちの実感	【視点3】 組織的な関わり
方針	<p><b>見通す ～学校組織マネジメント～</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学校課題解決に向けた組織マネジメントの機能を高める。</li> <li>○学校評価と関連付けたカリキュラム・マネジメント及び年間サイクルの確立。</li> <li>○授業改善・学校改善に向けた校内研究体制の充実。</li> </ul>		
実践項目・内容及び数値目標	<p>(1) 学力向上年間サイクルの活用。</p> <p>(2) カリキュラム・マネジメントの実施。</p> <p>(3) 学校課題解決に向けた組織マネジメント機能を高める。</p> <p>(4) 学校評価と関連付けたカリキュラム・マネジメントの確立</p> <div data-bbox="288 904 1270 1420" style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">【学びの質を高める授業改善・学校改善】サイクル</p> </div> <div data-bbox="229 1424 1369 1700" style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p><b>【数値目標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学力向上年間サイクルの取り組み→8割達成</li> <li>○学校評価アンケート（教職員）</li> <li>・「学力向上推進5カ年プラン・プロジェクトⅡ」に基づく，具体的な取り組みの共通理解・共通実践がなされている。→評定3以上</li> </ul> </div>		

視点	【視点1】 自己肯定感の高まり	【視点2】 学び・育ちの実感	【視点3】 組織的な関わり
----	--------------------	-------------------	------------------

方 策 つなぐ ～学校連携・地域連携～  
 ○市町村の特色を生かした施策推進による学校づくり。  
 ○キャリア教育の視点を踏まえた校種間の連携強化。  
 ○学校・地域・家庭の互恵的関係の構築

- 実践項目・内容及び数値目標
- (1) 保幼小中が連携し系統的・継続的な授業改善を推進する。
  - (2) スタートカリキュラムの活用を通して、保幼から小学校教育への円滑な移行を図る。
  - (3) 地域教育資源や本物に触れる活動を通じた取組で「学ぶ意義」や「働く意義」を実感させる。
  - (4) お仕事調査隊、職場見学や職場体験学習を教科等の内容と繋ぐことで取組の充実を図る。
  - (5) 地域学校協働活用事業の充実（ミントウンの会）
  - (6) 保幼こ小連携と幼児教育の充実を推進する。
  - (7) 小中連携の取組を通して、中学校区での児童生徒の育成を推進する。
  - (8) 地域学校協働活動を充実させ、各学校の「地域教育資源」の活用を推進する。
  - (9) 学校における体験活動を推進するため、様々な機関との交流活動の取組を推進する。



【数値目標】  
 学校評価アンケート（職員）  
 ○よりよい学校運営を進めるための校務分掌相互の連携・調整→評定3以上  
 ○保護者との相互理解を図るため、連携・協力を進めている。→評定3以上



令和4年度 学力向上年間サイクル

南城市立百名小学校

期間	学校の計画	学校の具体的な取り組み	主な学校行事や地域行事
R4.1月～ 3月	学習ステップアップ月間【1月～3月】		卒業式
R4.2月～ 3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>さわやか学習会を通して個別指導にあたる。</li> <li>県到達度調査</li> </ul>	<p>①朝自習において基礎基本事項の定着を図る。(国語、算数を中心に)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市販ドリルの活用</li> <li>まとめテストの活用</li> <li>プリントの活用</li> </ul> <p>②3～6年：さわやか学習会の実施</p> <p>(3年生、4年生、6年生)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学級担任で指導する。</li> <li>既習事項で、定着率が低い単元や項目等を取り上げる。</li> </ul> <p>(5年生)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>校長、教頭、専科、特別支援担任が指導にあたる。</li> <li>全国学力・学習状況調査の過去問題の実施や練習問題に取り組みさせる。</li> </ul>	
春休み	春休み期間中に宿題を取り組みさせる ・まとめテストや市販プリント…等		
R4.4月～ 5月	学力向上強化月間【4・5月】		始業式 入学式 全国学力・学習状況調査 家庭訪問
	<ul style="list-style-type: none"> <li>全国学力・学習状況調査実施後はフリー職員が採点をし、複数教員で再確認をし、県のWEBシステムに入力する。</li> <li>校内研修で、独自で採点した全国学力・学習状況調査の分析から課題や対応策を見いだす。</li> </ul>	<p>(6年生)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>春休みの宿題点検</li> <li>さわやか学習会の実施</li> </ul> <p>(校長、教頭、専科、特別支援担任が指導にあたる。朝自習の時間や金曜日の6校時)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>全国学力・学習状況調査の過去問題の実施やA問題及びB問題の練習問題に取り組みさせる。</li> </ul> <p>(2年生～5年生)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>前年度の国算の既習事項を振り返ってから(数時間程度)、本学年の学習へと移行する。</li> </ul>	
R4.6月～ 7月	学習規律の徹底【4・5月】		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習規律の徹底一覧表をもとに、指導にあたる。</li> <li>算数の研究(隣学年研)</li> <li>学力状況調査「学びのたしかめ」後はフリー職員が採点をし、複数教員で再確認後県WEBシステムに入力する。</li> </ul>	<p>(全学年)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学習用具の準備</li> <li>時間のけじめ</li> <li>黙想からの授業開始</li> <li>学習姿勢</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>1人1授業の計画を、隣学年で行う。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>各学年の実態に応じた学習プリントや学力状況調査「学びのたしかめ」の実施を通して、理解の定着を図る。</li> </ul>	

夏休み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内研修（理論研）</li> <li>・全国学力・学習状況調査の調査結果公表</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究テーマに基づいた理論研を行う。（算数科）</li> <li>・結果公表後、正答率 30 % 以下の問題を取り上げ、考察や対応策を話し合い、授業改善に生かせるようにする。</li> <li>・代表授業の指導案の内容を全職員で検討し、研究の充実に努める。</li> </ul>	個人面談
R4. 8 月～ 12 月	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">学力向上強化月間【8月】</div>		宿泊学習  地区陸上  運動会  修学旅行
<ul style="list-style-type: none"> <li>・1人1授業【12月までに】</li> <li>・学力状況調査「学びのたしかめ」後はフリー職員が採点をし、複数教員で再確認をし、県のWEBシステムに入力する。</li> <li>・金曜日の6校時にさわやか学習を行う。</li> <li>・学力状況調査を通して課題の把握を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1人1授業の実施【12月までに】</li> <li>・研究テーマやサブテーマに基づいた研究授業を行う。</li> <li>・全国学力・学習状況調査で得た考察も活用する。</li> <li>・代表授業を行い、講師から頂く指導助言をもとに、今後の道德の授業の在り方を共通理解する。</li> <li>・各学年の実態に応じた学習プリントや学力定着度調査の実施を通して、理解の定着を図る。</li> <li>・授業改善のポイントを確認し、年間指導計画に位置づけるようにする。</li> <li>・12月段階までの県・市・本校の調査結果の比較を通して、課題の把握に努める。</li> </ul>		
冬休み		<ul style="list-style-type: none"> <li>・冬休み期間中の宿題の提供</li> </ul>	
R5. 1 月～	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">学力向上強化月間【1月～3月】</div>		

# 百名小学校「学習規律」の徹底指導

学習規律の内容	1年	2年	3年	4年	5年	6年	支援学級
学習用具	鉛筆5本、消しゴム、定規、赤鉛筆、マイネームペン、辞書は机の横	鉛筆5本、消しゴム、30cm定規、赤ペン、青ペン、辞書は机の横	鉛筆5本、消しゴム、定規、赤ペン、マイネームペン、辞書は机の横	削った鉛筆5本、消しゴム、15cm定規、赤ペン、蛍光ペン、算数用具セット、辞書は机の横	鉛筆5本、赤青ペン、消しゴム、定規、蛍光ペン、ネームペン、辞書は机の横にさげる、裁縫セット等は棚へ	鉛筆5本、赤青ペン、消しゴム、定規、蛍光ペン、ネームペン、辞書は机の横にさげる、裁縫セット等は棚へ	児童の学年や、指導計画に準じる。
机に出す物	教科書、ノート、鉛筆、消しゴム、定規、赤鉛筆、下敷き ※筆箱は出さない	教科書、ノート、鉛筆、消しゴム、定規、赤青ペン、下敷き ※筆箱は出さない	教科書、ノート、下敷き、5点セット、発表カード ※筆箱は出さない	教科書、ノート、ドリル類、鉛筆2本、消しゴム、赤青ペン、下敷き ※筆箱は出さない	教科書、ノート、ドリル類、鉛筆2本、消しゴム、赤青ペン、下敷き ※筆箱は出さない	教科書、ノート、ドリル類、鉛筆2本、消しゴム、赤青ペン、下敷き ※筆箱は出さない	児童の学年や、指導計画に準じる。
黙想から休み時間までの流れ	①チャイムで席に着く ②日直「立腰」→全員「はい」→日直「黙想はじめ」→(1分後)日直「黙想やめ」これから〇〇の学習を始めます→全員「お願いします」 ③(授業終了時) 日直「立腰」→全員「はい」→日直「これで〇〇の学習を終わります」→全員「ありがとうございました」 ④(授業終了号令後) 片付け、次時の学習の準備、椅子を中に入れる、水分補給、トイレ、教室移動 …等						
学習の姿勢	①座り方 立腰 ②拳手 静かに肘を伸ばす ③発表 指名されたら返事をし、立って発表する。	①座り方 立腰 ②拳手 静かに肘を伸ばす ③発表 指名されたら返事をし、立って発表する。	①座り方 立腰 ②拳手 静かに肘を伸ばす ③発表 指名されたら返事をし、立って発表する。	①座り方 立腰 ②拳手 静かに肘を伸ばす ③発表 指名されたら返事をし、立って発表する。	①座り方 立腰 ②拳手 肘を伸ばし静かに拳手する。 ③発表 指名されたら「ハイ」と返事して、発言する。	①座り方 立腰 ②拳手 肘を伸ばし静かに拳手する。 ③発表 指名されたら「ハイ」と返事して、発言する。	児童の学年や、指導計画に準じる。
学年独自の取組	・鉛筆の持ち方 ・氏名シール(ひらがな、カタカナ)	・発表カードの活用	・発表カードの活用	・個人用発表カードの活用	・個人用発表カードの活用	・がんばりカードの活用(がんばったことの貯金カード) ・発表カードの活用	支援計画・指導計画にそって、個人の良さを生かした個に応じた指導を行う。